

日本物理学会第 76 回年次大会（2021 年）

物理学史インフォーマルミーティング議事録

領域運営委員 有賀暢迪（国立科学博物館）

I. 報告事項

1. 年次大会開催報告（有賀）

大会 1 日目 (3/12) 午後に 6 件の一般講演が行われた (7 件予定; 1 件は当日取消)

座長……前半：稲葉肇（明大政経）、後半：雨宮高久（日大理工）

参加者は最大 42 名、常時 25 名は超えていたと思われる。

2. 『日本物理学会誌』編集委員会からの報告（稲葉肇委員）

秋季大会以降に会誌に掲載された物理学史関係記事を紹介した。

記事を書きたい方がいれば連絡してほしい。

3. 「新著紹介」編集小委員会からの報告（岡本拓司委員；有賀代読）

取り上げるべき書籍があれば小委員会で提案するので知らせてほしい。

4. 物理学史資料委員会からの報告（小長谷大介委員長）

最近の委員会の活動について紹介した。

学会創立 150 年に向けた活動を今後、検討していくことにしている。

5. 次期の委員等について（敬称略）

領域代表： 冨塚明（環境物理）

副代表： 金長正彦（物理教育）

領域運営委員： 小長谷大介（新規）

会誌編集委員： 稲葉肇（任期継続）

「新著紹介」編集小委員会委員： 岡本拓司（任期継続）

代議員候補： 永平幸雄（新規；信任投票中）

II. 協議事項

1. HP およびメーリングリスト（ML）の管理者について

前回の秋季大会での取り決めは以下の通りであった。

ML：高岩会員が引き続きオーナーを務め、近いうちに別の管理者を立てる。

HP（物理学史）：高岩会員から有賀に交代し、次回年次大会で再度協議する。

HP（領域全体）：領域代表・副代表で管理をおこなう。

これをふまえて今後について協議した結果、
ML については、高岩会員が引き続きオーナーを務めることになった。
物理学史の HP については、有賀が担当を継続することとなった。
今後、大会での一般講演プログラムと IM の議事録を掲載するようにする。

2. 次回秋季大会の募集要項案について

一般講演申し込み時の「キーワード」として、現在は以下のようになっている。

- | | |
|-----------|---|
| (物理学史) | (history of physics) |
| (15)哲学・思想 | (15) philosophy and ideas |
| (16)学説史 | (16) internal history of physics |
| (17)社会史 | (17) social history of physics |
| (18)資料問題 | (18) historical documents and instruments |
| (19)その他 | (19) others |

このうち、(18) の英文を historical documents and objects に改めることとした
(instruments を objects に変更する)。

3. 大会での英語使用について

領域代表の興治先生より、2020 年 12 月末に以下の通り連絡があった。

先日行われました領域委員会につきまして、
学会の英語での発表、スライドの英語表記、概要集の英語化などにつきまして
大きな議論となりましたので、3 月の学会の IM で議論していただきたく、
よろしく願いいたします。

具体的には、

-----領域委員会の意見を取り入れた 2020 年 12 月 12 日理事会提案-----

- 1) 留学生や外国人研究者の参加者への配慮
- 2) オンライン会議での海外からの参加者の可能性を広げる
- 3) 学生への教育などの観点から、
 - ・物理学会としては学会発表スライドの英語化を推奨する
 - ・将来的には概要集を英語で書くことも推奨する

がありました。

領域委員会では、領域ごとの事情が異なることから、反対意見も多く出されましたが、

「理事会提案」とあるように、
「少なくとも学会の発表スライドを英語にする（又は併記）」などの
強いメッセージでこれから進む可能性もあります。

領域 13 は、英語必須化されると厳しいと思いますので、ぜひご議論ください。
IM の議論の結果は、学会（理事会）へ戻したいと思います。

--- [引用おわり]

これを受けて、物理学史（サブ領域）としての意見を議論した。

以下の通り、領域代表に回答することとした。

- ・ 英語使用を一律に強制するのは問題だが、物理学史の講演での英語利用は妨げない。
- ・ 日本語の講演概要に英文要旨を付し、英語の講演概要には日本語要旨を付す、
ということは考えられるのではないか。
- ・ 日本の物理学は明治初頭に物理学用語の日本語訳を検討するところから始まっており、
今回のような状況が生じていること自体が物理学史の立場からは興味深い。

4. 次回秋季大会での企画について

2021 年秋季大会は 9 月 20～23 日に東京工業大学大岡山キャンパスで開催予定
（現時点では現地開催されることになっている）。

チュートリアル講演を企画してはどうかとの提案があり、議論した。

物理学の歴史や物理学史の研究方法などを、初歩から解説するものがよい。

学会がオンライン開催ならば、海外の方でも講演可能かもしれない。

具体的な講演者や講演内容の案があれば、領域運営委員に知らせて検討する。

以上